

第3次稲敷市総合計画策定支援業務 第4回審議会での主なご意見

(1) パブリックコメントの結果について

- ・非常に大事な意見で、対応としては、全ての意見を尊重しながら、回答案という形で市の考え方が示されている。このような対応でよろしいかと思う。

(2) 第3次稲敷市総合計画案について

- ・特徴的なのは第3編で重点プロジェクトを頭出ししているということと、最後にデジタル田園都市国家構想、あるいは行革との関連をきっちり書いていて、総合計画がひとり歩きしないということの裏付けになっているところかと思う。総合計画に関しては、この計画案を了承したということにさせていただく。
- ・この計画自体は意欲的な計画でぜひ実現してほしいという思い。そこで、この素晴らしい計画が絵に描いた餅にならないように、進行管理が重要かと思う。その進行管理としては、重点プロジェクトの目標値設定、それと個別計画の目標指標、この2種類が、一応進行管理上の数値かと思う。この達成状況を計画期間中に毎年チェックして、必要に応じて対策をとらなければ、この計画が絵に描いた餅になってしまう。その数値管理をしていくおつもりがあるかと思うのだが、毎年1回程度はこのような外部の人を迎え、いろいろな意見を聞いて、対策をとりやすくなると思う。内部だけじゃなくて、外部も活用して、実現化を図っていただきたい。

(3) 答申案について

- ・1番は協働のまちづくりという基本のところ。2番は先ほど委員からご指摘いただいた進捗管理をきちんとやりましょうということ。3番は人口減を前提にしているということ。本日の会議での委員の発言が反映された形に、結果としてなっているかと思う。

(4) 意見交換

- ・計画を作ることが大事ではなくて計画を実現することが大事だということが当然なので、計画をぜひとも実現してほしいという思いでいっぱい。我々、私も市民だが、できるだけ協力するので、色々な意見、ほかの場などもあったら参加させていただきたい。
- ・しっかりこの位置付けされたものをぶれることなく進めていくのが、今後の大きな課題であろうと思う。議会としてもそれに伴うようにしっかりと議論をしていきたい。
- ・全て市民の協力、認識の共有が大事になろうかと思う。執行部、市長、この方向性を、矢印を示す施策を行ってほしい。
- ・審議会の委員として参加し、本当に稲敷市の色々なことがわかって、これからのことも

踏まえ、どんどん自分自身もいろいろなところで参加していかなければいけないなどというのは改めて感じた。

- 向かう方向性が、まちづくり、住民の幸福を目標にしているというようなところで、いくつかほかの自治体の計画も関わらせていただいたことがあるが、やはり「いいな」というふうに感じている。とかくDXとか環境というものを全面に出して計画を作りがちだが、環境の取り組みであったりというところの向かう先は、やはり住民の幸福であろうというところで、目的はそちらのほうにきちんと置いている、非常にいい計画ができたと感じている。
- 人口減少対策や、土地利用について、これからどのように実現していくのか、それがすごく楽しみである。
- ここに関わったことでまちづくりに責任を持ったなというところもある。この計画がどういうふうに進んでいくのか、これからも一市民として責任を感じつつ見ていきたい。
- 市民が行政に依存しないで、要望ではなくて意見をちゃんとと言えるような市民にならないといけないと思って会に出席していた。やはりまちづくり、地域づくりは人づくりだと思っていて、最後は人だと思っている。稲敷市は、人の財と書く人財の方がいっばいいるので、またその方々と色々なお話をしながら歩いていきたいと思っている。
- 私にとって、何ができるだろうと本当に思っていたが、今後に向けて、皆様のお力をお借りしながら、市の未来、子どもたちの育成などにつながっていきけるような活動をしていきたいと思う。また私たちも参加させていただける機会があったら頑張りたい。
- これからは新たなステージへ踏み出して、こういうところこそ重宝される時代が来ると、重宝されるまちにできると信じている。4年後、変わったな、新しいステージに踏み出したなと実感できることを期待しつつ、自分も未来への種まきとして、我が子の子育てを頑張りたいと思う。
- 非常に楽しかった。答申の中の3つ、これを全部市民がどうやって関わっていくかということだが、市民が協力できることがあると思う。やはり今まではどちらかという、一方通行で双方向ではなかった。市民としてできるということをしていきたいなというふうに思う。
- 稲敷市の市民一人ひとりが何を考えどう行動するか、動いてもらうかということが大事だと思う。自分ができることをやって、かつそれを行政と市民が一緒になって進めていくと未来がひらけるのではないかなと思う。
- どんどん人口減少しているが、決して悲観的になることはない。これだけ真剣に、また危機感を持って郷土を愛している方がいらっしゃる、こういうことだけでも、稲敷市は見捨てたものではないというふうに思う。ぜひ一人一人が、何ができるか、前を向いて頑張ろうというような気持ちを新たに持った。
- 協働とか連携といったキーワードをもとにまちづくりについて話し合われてきたかと思うが、今の社会情勢などを考えると、非常に大切な観点かなというふうに考えながら

会議に参加した。

- 「つながるまちづくり」というキーワードを出されていたかと思う。やはり人と人がしっかりとつながる。そして、稲敷市ならではのまちづくりを進めるという、その一つの稲敷ならではのまちづくりのベクトルを、今、示している。これから、この計画が稲敷市民一人一人にしっかりと根付かせられるような、そのような活動がやはり我々には必要なのかなと思う。人と人とがつながるためには、その思いを市民みんなで共有するべきかと思う。
- この計画ものすごく希望に満ちた計画で、国の言っている通りの人口にはならないぞと言っている、根性を見せている計画なのだということを理解していただきたい。目先はすごく大変だけでも、長期的にはなんとかなるという視点が必要。
- 稲敷は東京の真横にあるので、実は農村地帯であるが、東京的なところが非常に強い。要するに、良くないことだけ、東京の悪さと田舎の悪さ、両方出てしまっている。だから、作戦は非常にはっきりして、田舎の良さと都会に近い良さを両方取るようにするとものすごく良い。現状は、東京に近いことの弱点と田舎の弱点が両方出ていて、全てが裏目に出ている。東京に近い悪さというのは、反応が東京と同じということ。一緒になってやりましょうとか、なんだか少しいイベントぐらい参加してやろうかという人は、市民のごく一部しかいない。東京と同じだから。田舎だともう少しいくのだが。つながろうとか言いながら、東京の人はつながる気は全くない。それと同じことが実は稲敷では起きている。もう少しつながったほうがいい。
- この状況で、「とりあえず経費を削減して人口に合わせてどんどん人員を縮小しましょう」とやっても、「なんかこの町、将来性がなさそうだから他の市へ引っ越そうか」という人を逆に増やしてしまうことになってしまう。とりあえずやらなくてはいけないのは、切るほうではなくて、他の地域へ引っ越している人が同じような条件で市内に住める拠点がなくて、それは江戸崎と新利根。新しく安い若者向けの家が建つようなところを、コンパクトシティの名のもとに整備を進める。コンパクトシティをコストカットに使うのではなくて、出ていく人を食い止める方法として使うということ、当面この12年間の計画の中ではぜひやっていただきたい。それは決して無駄ではない。なぜならば、出て行っている人間を食い止めるものだから。
- 一方で、東京あたりで、「もうあんなに狭い家は嫌」という人、寒くてもいいから広い家に住みたいですという人がいっぱいいるので、その人たちを古民家へ住ませる。そういう人はコンパクトな江戸崎、新利根に住もうとしないので、東と桜川がよい。その時にその人たちが子どもと住んで、「近くに全然、保育園、幼稚園がありません。」ということにならないように、残せる間はなるべく残しておく。まだやらずに、本当にここが減るとなってから切る。次の計画で本当に切れればいい。とりあえずは少しやせ我慢してください、この12年は。
- 「幸せ」はバロメーターがなかなか難しい。この時期をどうやって我慢をするのか。そ

れで次につなげる。しっかりとつなげていく。いろんな意味で協力をしていきながらや
っていければと思う。

- まちづくりにおいては、学識だとか行政、政治家だけだともう限界にきているかなとい
うふうに思う。やはり一般の方だとか違いがある人が入った議論が本当に大事だと思
った。そういう意味でも、非常に有意義だったし、また、これを踏まえながら、総合計
画というものを推進していきながら、一方で見直しを、勇気を持って実行していくとい
うことが大事かなというふうに思う。